

## 臨床研究に関する情報公開

<人を対象とする医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、患者さんに不利益が生じることはありません。

<p>&lt;研究課題名&gt; 放射線誘発両側外耳道癌の後ろ向き観察研究</p>
<p>&lt;研究機関・研究責任者名&gt; 日本大学医学部附属板橋病院 放射線科 (研究責任者)前林 俊也</p>
<p>&lt;研究期間&gt; 承認日 ~ 西暦 2019年 12月 31日</p>
<p>&lt;研究の目的と意義&gt; 放射線治療はがん治療の一つとして有用であり、特に頭頸部癌においては機能が温存できる治療である。しかし放射線治療には晩期有害事象があり、その一つとして稀ではあるが数年から数十年後に出現する誘発癌がある。そのため、頭頸部癌の放射線治療を行った患者さんの診療記録やデータベースから放射線誘発癌症例を抽出し、その中の両側外耳道癌に対する治療方法や第一癌治療後の長期経過観察が早期発見早期治療に寄与する方法を調べるのが目的である。</p>
<p>&lt;利用する試料・情報の項目&gt; 利用する情報は検査データ、診療記録等です。 5-20 年程度前に照射を行った診療記録や照射記録を参考に、二次発がんがみられた患者さんを抽出し、その症例群のうちで放射線治療が原因かどうかを明らかにし、さらに今後の医療に役立てるための情報収集をおこないます。</p>
<p>&lt;対象となる患者さん&gt; 西暦 2001 年 1 月 1 日～西暦 2017 年 5 月 31 日の期間に当院放射線科で頭頸部癌の治療を開始された方のなかで、放射線誘発外耳道癌に罹患した方</p>
<p>&lt;研究の方法&gt; 今回我々は過去に頭頸部癌患者さんについて放射線治療を行なった症例の診療記録を見直すことで、放射線誘発外耳道癌など有害事象と治療方法やその後の予後を調査を行います。</p>
<p>&lt;お問い合わせ窓口&gt; 日本大学医学部附属板橋病院(東京都板橋区大谷口上町 30-1) 放射線科 氏名:前林 俊也 電話:03-3972-8111 内線:(医局)2554 (PHS)8328</p>